

①事業実施報告書詳細

事業実施報告書詳細

学校名 田原市立福江中学校

時間数	場所	概要	活動記録(写真)	対象者の反応
1	各教室	○田原市の魅力と問題点について		第1学年の総合的な学習の時間では、地域の魅力について調べてきた。その振り返りと同時にどんな課題があるのかを出し合い、共有した。
2	武道場	○「ふるさと『田原』の自慢できるところと問題点」 田原市博物館 天野学芸員の講演会	 	学芸員の方から、ふるさとの良さや今後の課題を聞くことにより、地域に今後の人口減少という大きな問題が存在するという事に気づくことができた。そのことで、まちづくりに対する切実感をもつことができた。
2	各教室	○まちづくりに関わる方々の講演会 夢ワーカーリンク ・渡邊幹和さん (旅館黒潮) ・板倉祥文さん (渥美半島ハーブの会) ・西野裕子さん (四つ葉のクローバー) ・川崎政夫さん (まちづくり観光ボランティア) ・荒木通仁さん (たはら元気ネット)	 	地域でまちづくりに関わる方々を招き、どのような思いで、どのような活動をしているのかをお聞きする会を開催した。たくさんの方々が地域のことを思い、実際に活動している様子を知り、自分たちにもできることがあるのではないかと、という思いを持つことができた。

		<p>・加藤昌高さん (サーフィンミック)</p>	 	
2	武道場	<p>○地域の未来を考える学習会 IIDA WAVE 総合プロデューサー桑原利彦氏講演会</p>	 	<p>長野県飯田市で、中学生とともにまちづくりを行っている桑原さんを招き、まちづくりに若者が関わることのすばらしさや苦労について、お話を伺った。お話を聞くことで、具体的にまちづくりに関わることの良さや、自分たちにもできるかもしれないという前向きな気持ちをもつことができた。</p>
8	各教室	<p>○地域活性化プランづくり</p>	 	<p>これまで学習してきたことや、個別の調べ学習を行い、その上で、各自でふるさと渥美活性化プランを作成した。中学生らしい発想のさまざまなプランをつくることができた。</p>



2	武道場	<p>○まちづくり発表会</p> <p>&lt;お招きした方々&gt;</p> <p>○ 田原市議会議員</p> <p>○ 田原市役所</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校教育課</li> <li>・ 商工観光課</li> <li>・ 街づくり推進課</li> </ul> <p>○ 清田・福江校区 まちづくり推進協議会</p>		<p>生徒が考えたプランを地域の方々に発表を行った。各自でたてたプランをまずは、教室で全員が発表し、クラスの話し合いの結果選出された12プランが発表された。</p> <p>「渥美に架け橋を」 「フラペTAHARA ～新しい花壇～」 「田原を都会に～夢の実現・不可能を可能に～」 「田原をPR ～バンジージャンプ～」 「伝えます。ラジオで！」 「ロマンで繋げる田原」 「野菜嫌いをなくす魔法の食品」 「シェアして明るい未来へ」 「渥美の野菜を全国へ」 「TEAM渥美・伊豆・志摩」 「渥美の良いところどりツアー」</p>

## ②学習指導案（計画段階の指導案。（修正版でも可））

< 添付資料 >

### ③ 実施内容について

<p>(1) 実施にあたり工夫した点</p> <p>第1学年から第3学年の3年間を通して、「ふるさと渥美と自分の未来をつくろう」というテーマで総合的な学習の計画をつくり、1年「知る」→2年「考える」→3年「動く」という流れで学習を行った。第2学年は「考える」段階と位置づけ、ふるさとの課題を捉え、ふるさとを元気にするまちづくりプランを作成する活動を中心に学習をすすめた。</p> <p>そのさい、実際にまちづくりにかかわっている方々と直接話を聞く機会を多く設定し、ふるさとへの思いや行動力を学ぶ学習に取り組んだ。</p> <p>作成したプランについては、実際に地域の方や市役所の方に来ていただき、発表会を開き、提案活動を行うことで、生徒が意欲をもって学習に取り組む環境をつくった。</p>
<p>(2) 実施にあたり苦労した点</p> <p>中学生がプランを作成するにあたり、実現可能なプランづくりをめざすのか、中学生らしい発想豊かなプランづくりをめざすのかという点については、教員の間でも議論になった。そこでは、実現可能かどうかよりも、もっと自由に発想豊かにプランをつくる方向で学習をすすめた。そのほうが、中学生がまちづくりを企画する意味が深まると考えたからである。</p>
<p>(3) 生徒の反応</p> <p>この学習をすすめて生徒のふるさとに対する理解は、かなり深まった。生徒へのアンケートでは、約8割の生徒が地域の良さをより認識するようになり、約5割の生徒が自分たちにもできることがたくさんあると気づいたと答えている。</p> <p>また、地域のイベントやまちづくり活動のボランティアに参加する生徒も増えてきている。この学習を通して、ふるさとに対する理解や愛着が増しているのを実感している。</p>
<p>(4) 担当教諭及び担当外教諭の変化</p> <p>教員についても、地域のことについて知るとても良い機会になった。特に、地域の方々のお話を聞く機会を多く設定したことで、教員も校区に対する理解を深めることができた。また、前向きに行動を起こしている方々の姿から、ふるさと学習の重要性を強く意識する教員が増えてきた。今後の課題としては、教員が地域についての教材研究をすすめ、生徒に知らせたいこと、考えさせたいことをより明確にして、活動に取り組んでいきたい。</p>
<p>(5) 今後の課題と取り組み〔児童の思考過程と指導内容との関連付けから、留意すべき事項等〕</p> <p>第2学年でふるさとについて考える学習を行い、3年生では、実際に行動する学習につなげていく。本年度の3年生は「渥美PRプロジェクト」と題して、ふるさとをPRするポスターやチラシづくり、まちおこし商品の開発を行った。第2学年で、考えたプランと第3学年での行動をどう関連させていくかが今後の学習の一つの課題である。</p>